

## R5年度 モコ掛川・宮脇保育園 園評価

### 保護者アンケートより

全体的に園の活動に対して協力的で、あたたかな言葉もたくさんいただけた嬉しいアンケート結果だったと感じる。モコ掛川保育園、モコ宮脇保育園の保育が保護者にも浸透し、日々の子どもの姿の配信から保護者も一緒になって「保育活動」を楽しんでくれるようになり、今、子ども達が何に興味を持ち、どんなことをしているのか、どんなことを感じているのかを共感し、共にワクワクしてくれる保護者との関係性は理想的だと思い、とてもうれしく思う。

設備的な面として様々なご意見をいただいた。昨年度は駐車場から園庭に続く道を芝生にしたり改良がされてきている。すべてを完璧なものにはできないと思うが、子ども達のために必要な部分は、今後も計画的に改善を行っていきたい。

また、「保育園」としての役割はどうあるべきなのかを考えさせられるご意見も多くあった。「働く保護者のために」はもちろん意識していかなければならないが、あくまで子ども達を第一である保育園でありたいと思っている。働く保護者のためにそして何より子ども達のために園はどんな役割をすべきか、時代の変化と共に考えていかなければいけないと考えさせられた。

### 職員評価より

今年度は開園3年目。5歳児まで全クラスがしっかりと揃う初の年だった。2年間で積み上げてきた「モコの保育」をさらに飛躍できるよう、保育士一人一人の思い、子ども達の思いをより大切にしてきた。

特に3歳以上児の保育は今後の「モコのあそび」の源となるものが、子ども達からたくさん生まれてきたように感じる。クラス担任になると、自分のクラス以外の活動がなかなか感じられないが、夏の全体研修や、職員室で交わされる生き生きとした子ども達の姿から、担任しているクラス以外の活動にも興味が持てるようになったり、以上児経験のない若手の職員が「面白さ」を感じてくれたり、子どもだけでなく、職員同士も切磋琢磨できる状況が生まれたと感じる。

課題としては2年が経過し、少しずつ保育を展開していく中で「大切にすべきもの」が疎かになっていないかを確認していきたい。「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとう」等のあいさつを始め、幼児期に身に付けるべき事をもう一度職員全体で共有し、保育の中に位置づけていきたい。

### 園総合評価

子ども達の自由遊びの中から始まった「おぼけ屋敷」は夕涼み会で保護者にも披露するほどダイナミックな展開になり、子ども達の達成感が感じられた。夢中になったドッチボール 裏園庭に書いたコートをきっかけに、当初ルールもままならなかった子ども達が、夢中になり、卒園間近まで「赤組・白組」で真剣勝負。勝つうれしさ、負ける悔しさを感じ、子ども達が成長していく姿に保育士も感動できた活動だった。ツマグロヒョウモン、メダカの産卵、魔女からの手紙・・・心の動かされるたくさんの活動が今年度も展開できたと感じる。

子ども達の興味を拾い、形にしていくのは本当に難しい。「何を準備しようか」「どんな声掛けをしようか」子ども達に真剣に向き合うからこそ生まれる日々の悩みを、「悩み」と捉えずワクワク一緒になって楽しむ保育士の姿がとても印象に残る1年だった。子どもだけでなく、保育士も「やってみたい」と意欲溢れる姿があるからこそ、生き生きとした展開が生まれるのではないかと感じる。今年度の子ども達の「熱」を次年度に引継ぎながら、保育を展開していきたい。